

鳴子瓜 甜瓜也 柏木村鳴子宿 瓜の名物也 江戸より三里程

府中瓜 同 甲州道高井土の先 名物 江戸より六里程

鳴子、牟禮、石原、谷保、俗ニ藪ト云 國分水神、府中是等を西山と稱す、此所々江戸より西にあたる、山

瓜と稱して上品なり、

又豆州香貫志下、猪濱、蛇塚、榎島、下總の柏井、御門、折立、道邊、中澤等より出るを、東と云、西山より稱

美うすし、その外目黒、千束、旗ヶ谷、喜多見、衾、渡田、綱島、道澤、矢口、鶴見、八幡塚等よりも出る、これら

を南といふ也、是も味ひ西山に劣れり、又江戸へ一番に出る瓜は、駿州安西、井宮、河原也、

〔國花萬葉記美濃〕美濃國郡名物出所之部

真桑瓜 世に真桑瓜と云、此處根本也、

〔安齋隨筆後編十五〕真桑瓜 本名甜瓜、カリ真桑瓜は美濃國の地名也、其地の瓜名産也、

〔貞丈雜記飲食六〕一夏食する瓜は、甜瓜と云物也、黄色にてもえぎ色の細きたて筋あり、古代はほぞ

ちと云し也、今江戸にてまくはうりと云也、美濃の國真桑と云所より出る瓜名物也、他國他所に

て作り出すをおしなべて真桑瓜と云は無理なれども、今江戸にてはすべてまくはうりといふ

也、

〔玉勝間八〕真桑瓜

御湯殿のうへの日記に、天正三年六月廿九日のぶながより、みの、まくはと申す名所のうりと

て、二こしん上とあり、真桑村は本巢郡也、

〔秋苑日涉十二〕真瓜

甜瓜俗謂之真瓜、朝鮮郷名也、見村家急救方、美濃有真瓜村、其地所産、香味異常、開香如有負擔過門

者、清異錄曰、瓜最盛者、無踰齊趙、車擔列市、道路濃香、故彼人云、未至吾交、先以鼻選、真瓜村所産、亦鼻